

CBRC Newsletter

<http://www.cbrc.jp/>



新センター設立にあたって



浅井 潔

(Kiyoshi ASAI)

生命情報工学研究センター長

2007年4月、CBRCは「生命情報工学研究センター」という名称で新たなスタートを切ることになりました。今回のCBRC Newsletterでは、2ページ目以降に新研究センターの体制、課題などを掲載しました。

バイオインフォマティクスの第一の課題は、分子レベルの反応の積み重ねとしての生命現象を、計算機の助けを借りて情報学的に明らかにすることだと私は考えています。同時に、生物学実験で得られるデータの情報解析技術を提供することも重要な役割のひとつです。生物学者の過大な期待に答えられずに評価を得られない時期もありましたが、バイオインフォマティクスが生命科学に不可欠な解析技術を提供していることは、現在では広く認められています。

2001年4月、バイオインフォマティクスの研究者がお台場に集い、多くの方々の助けによりCBRCが

設立されました。あれから6年、状況の変化に試行錯誤を繰り返しながら、CBRCは周囲の予想を上回る発展を遂げました。新生CBRCは、これを継承・発展させると同時に、より工学的視点から生命情報学に取り組もうとしています。実用的な技術の開発は、(独)産業技術総合研究所の使命ですが、「科学」から「工学」へ漢字1文字だけ変わった新研究センターの名称には、人材・環境・成果を継承する決意と、生命情報学の探求と応用技術開発の両立を目指す我々の思いが込められているのです。継続的な活動を反映して英語名や略称CBRCは変わりませんが、新しい発展のために勇気をもって決別するものもあります。新生CBRCは、質の高い研究の追求とバイオインフォマティクスの人材養成を継続すると同時に、あらゆる発表、提案、説明で飾らない事実に基づいて行動します。

エッセー ● ● ● 1

研究センター紹介 ● ● ● 2

研究チーム紹介 ● ● ● 3

お知らせ・成果紹介・研究員紹介 ● ● ● 4

バイオインフォマティクス研究では、情報学として優れていること、生命科学に貢献できることはもちろんですが、知的基盤を構築することが重要です。私の周囲を見渡すと、数理的なモデル・手法と生命現象・データとの接点を探り、モデルやアルゴリズムを工夫してソフトウェアとして実装し、実データの解析とソフトウェア公開を行うという流れが見えてきます。新生CBRCでは、研究センター内外のソフトウェア・データベースを組み合わせ、統合的に利用し、具体的な課題を解決できる環境を提供する形で、情報基盤を統合することを計画しています。

